

元総社落合遺跡

老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2014.7
前橋市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所

例 言

- 1 本報告書は、老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う元総社落合遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、事業者である金井整より委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 3 発掘調査の要項は次の通りである。
発 挖 調 查 場 所：群馬県前橋市元総社町字落合721-1ほか
遺 路 号：008120
発 挖 調 查 期 間：平成26年3月18日～平成26年3月28日
整理・報告書作成期間：平成26年4月2日～平成26年7月31日
発 表：整理作業担当者 梁田洋平（有限会社毛野考古学研究所）
- 4 本調査の顧問は柴田一（有限会社毛野考古学研究所）が行つた。原稿執筆はIを福田貴之（前橋市教育委員会）、他を柴田が担当した。
- 5 発掘調査・整理作業に関わった方々は以下の通りである。（50音順）
【発掘調査】赤尾泰希・凌川正行・新井健吾・井上正三・清水勝・清水千代・松井昭光
【整理作業】仙波葉津美・高橋真弓・根本正子
- 6 発掘調査で出土した遺物及び、図面などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
- 7 以下の諸氏、該機関にはご指導・ご協力を賜つた。記して感謝の意を表する。
- 8 金井整 有限会社スマヤ測量 トヨイヨーポレーション

凡 例

- 1 遺構図の縮尺は挿図中にスケールを付してある。また、図中の方位北は座標北であり、座標値は日本地図系に基づいている。
- 2 座標値とは別に上野町分尼寺守城確認調査に用いられた1mグリッドの名前を付し、近隣調査との整合性を取りやすくした。
- 3 遺物実測図の縮尺は1/3で掲載し、図中にスケールを付してある。なお、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
- 4 遺構および構設置の略称は、次の通りである。
H：住居跡 D：土坑
- 5 地理的環境・歴史的層疊・周辺道路については「元総社苔海遺跡群（28）」を参照されたい。

目 次

例言・凡例・目次・図版目次・表目次

I 調査に至る経緯	1	III 標準堆積土層	3
II 調査方針と経過	2	IV 遺構と遺物	3
1 調査方針	2	V まとめ	8
2 調査経過	3	抄録・奥付	

図版目次

Fig. 1 調査区位置図	1	Fig. 5 土層断面図	5
Fig. 2 調査地点位置図	2	Fig. 6 出土遺物（1）	6
Fig. 3 基本縦断図	3	Fig. 7 出土遺物（2）	7
Fig. 4 調査区全体図	4		

表目次

Tab. 1 遺構一覧表	6	Tab. 3 出土遺物観察表（2）	8
Tab. 2 出土遺物観察表（1）	7		

I 調査に至る経緯

平成 25 年 11 月 8 日付けで開発者である金井 繁氏より老人ホーム等新築工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年 12 月 20 日に試掘調査を実施し、平安時代の住居跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、エレベーター・ピット箇所については保護が不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 26 年 3 月 7 日付けで開発者、民間調査組織、市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年 3 月 18 日から現地調査が開始された。



Fig. 1 調査区位置図（前橋市役所発行『前橋現形図 52-3』1/2,500）

II 調査方針と経過

1 調査方針

本発掘調査は老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、調査面積は36 m²である。調査対象地は試掘調査によって遺構の有無が確認され、調査範囲の設定が行われた。調査を進めるにあたって、測量は日本測地系の公共座標に基づいて行われている。調査方法は、表土掘削→遺構確認・検出作業→遺構掘削作業→土層確認→遺構発掘の順で行い、写真撮影、遺構測量は推進状況に合わせて適宜行った。表土除去は重機による掘削で、遺構確認面（IV層）まで掘り下げを行った。遺構確認作業にはジョレンを、遺構掘削には移植ゴテを使用し、出土遺物は可能な限りトータルステーションを使用して3次元計測をした後に取り上げを行った。検出された遺構は、平面測量・写真撮影による記録保存を行い、遺構平面図は1/20を基本として作成し、トータルステーションを使用して測量している。遺構写真は35 mm白黒フィルム、35 mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として1,400万画素のコンパクトデジタルカメラを併用した。

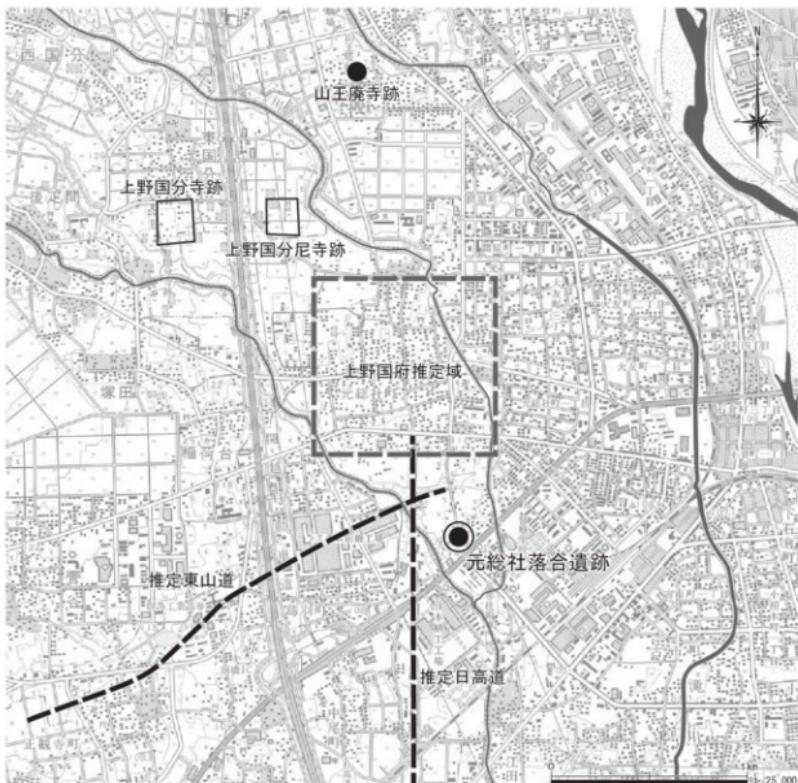


Fig. 2 調査地点位置図 (国土地理院発行『前橋』1/25,000)

2 調査経過

現地での発掘調査は平成26年3月18日から平成26年3月28日まで、整理作業は平成26年4月2日から平成26年7月31日まで行った。経過は以下の通りである。

【発掘調査】平成26年3月18日：重機による表土除去開始。発掘器材搬入。遺構検出作業・各遺構の掘削を開始。3月20日：降雨のため現場における作業は中止となる。3月28日：遺構掘削終了。完掘状況の写真撮影を行う。前橋市教育委員会の終了確認が行われる。発掘器材の撤収作業。現場における発掘調査は終了となる。

【整理作業】平成26年4月2日：遺構図面の修正作業・出土遺物の洗浄・注記作業を開始。5月1日：遺物の分類・接合作業を開始。5月27日：遺物実測作業を開始。6月6日：報告書原稿作成、遺構図・遺物トレース・版組を開始。6月30日：入稿・校正。7月24日：印刷・製本。7月31日：報告書刊行・納品。

III 標準堆積土層

調査区の北西隅において現地表面から約1.5mの深さまで標準堆積土層を確認した。全体的に黒褐色系統の堆積土で、遺構確認面として捉えたIV層は総社砂層とみられる。総社砂層は、元総社苔海遺跡群などの調査では2.5m以上の堆積が確認されている。IV層以下は黒色の堆積土で、縄文時代早期(約11,000年前)以前に堆積した湿地帯の前浜泥炭層であるとみられ、特にVII層は粘性が強い。

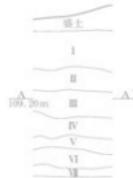


Fig. 3 基本層序 (S = 1/40)

IV 遺構と遺物

1 積穴住居跡

積穴住居跡とみられる遺構は複数確認されたが、本調査対象区は36m²と狭く、いずれの遺構プランも重複関係にあったため、土層観察において正確な遺構数や規模を捉えることを試みた。しかし、唯一カマドが確認されたH-2号住居跡を除いて、そのほかの住居跡とみられる遺構では明確な規模や軸方位を捉えることは非常に困難を極めた。H-4・6号住居跡は東カマドを持つ住居跡と想定しているが、焼土が確認された箇所からは明確なカマド構築材などが検出されていないため、肯定的な要素に欠ける。H-3号住居跡は調査区東壁において、カマドとみられる焼土を含む堆積層や壁面の立ち上がりが確認できたが、遺構検出面と住居跡の床面がほぼ同じレベルであったため、平面では住居跡の形状を捉えることはできなかった。

出土遺物からいずれの住居跡も8~9世紀に帰属する住居跡であるとみられるが、一部の遺物を除いて出土遺物の接合関係は複雑であったため、遺構の把握と同様に遺物の正確な出土遺構を把握することも非常に困難であった。

2 土坑

土坑とみられる遺構は5基確認された。D-1号土坑はH-1号住居跡と重複しており、土層観察からH-1号住居跡より新しいと判断されるが、底面形状が平坦で、遺構壁面もほぼ垂直に立ち上がることから、D-1号土坑が住居跡である可能性も否定できない。D-2号土坑は覆土中層より土師器の壊が、D-3号土坑は覆土上層～下層にかけて散在するかたちで土師器の壊片が出土している。

3 表採遺物

縄文時代後期堀之内式の注口土器片が1点出土しているが、これ以外に縄文時代の遺物は確認されなかった。

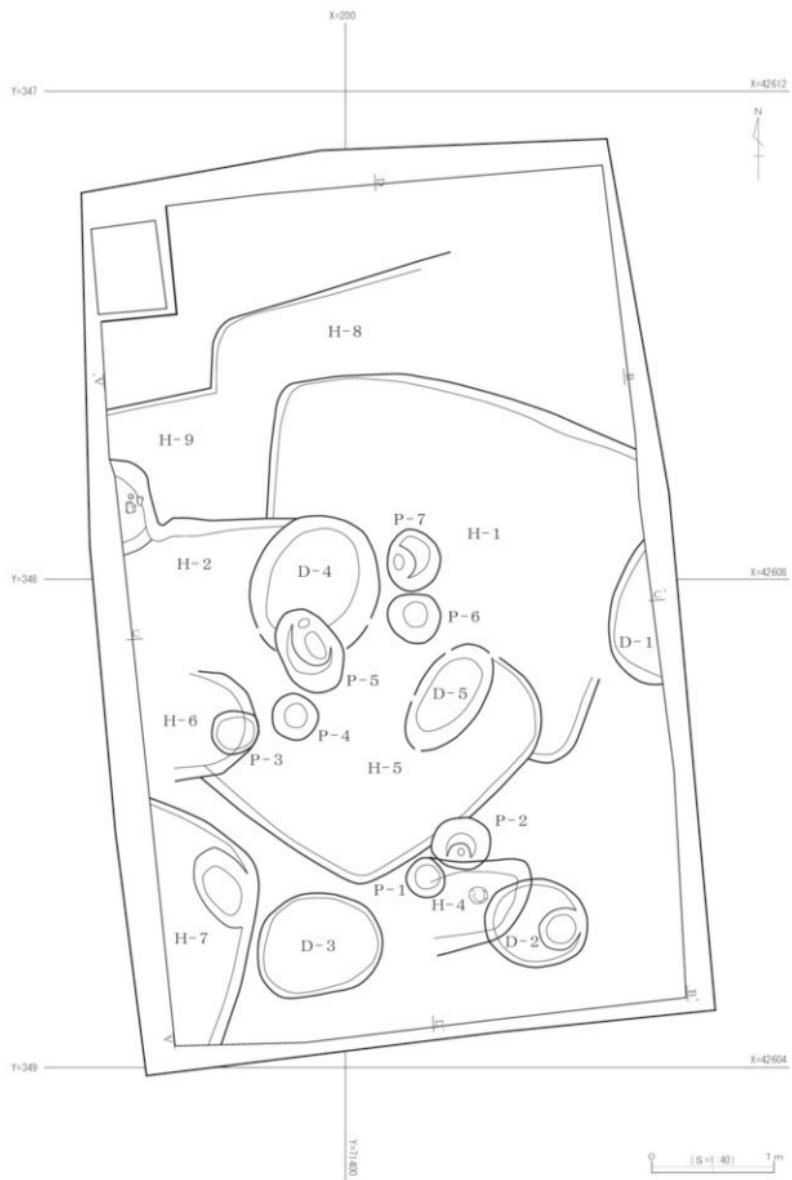
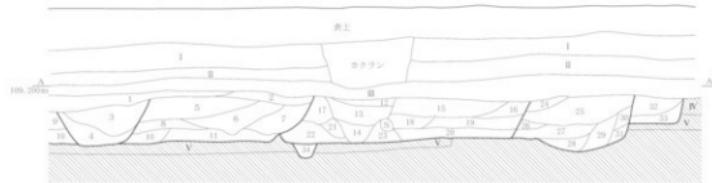
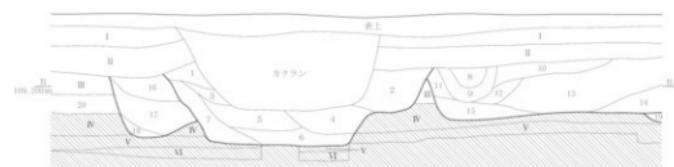


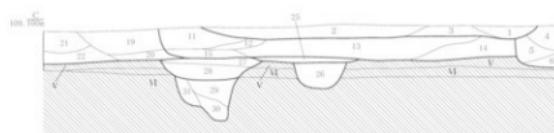
Fig. 4 調査区全体図



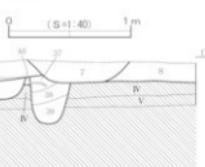
1-1 頭痛：頭痛頻 3-4 次，頭痛強 (94.4%) 11-12 次，頭痛強 (97.7%) 13-14 次，頭痛強 (94.4%) 15-16 次，頭痛強 (97.7%) 17-18 次，頭痛強 (97.7%)



1-7題: 1人1題目、8-11題: 2人1題目、12-15題: 3人1題目、16題: 4人1題目、17題: 5人1題目、18題: 6人1題目



1～3層：既往歴（既往歴なし）	28例：P-6
4～6層：P-1号左乳	27～28例：P-4号左乳
7層：P-4号右乳頭（タマゴ型）	29～31例：P-5
8～10層：既往歴（既往歴なし）	32～35例：P-7
11～15層：P-1号右乳頭	36例：P-3号左乳
16～22層：P-2号右乳頭	27～29例：P-1
23層：P-4号左乳頭	40例：既往歴（既往歴なし）



5.1.5 木屋施設問題

Tab. 1 遺構一覧表
住居跡

遺構名	規模 (m)			方位	印・カマド (m)	窓・竪穴 (m)	出土遺物	帰属時期	備考
	長軸	短軸	深さ						
H-1	3.1	2.65	0.18	N-22°-W	—	—	—	土師器・須恵器・鉄製品	9 c 前
H-2	(1.45)	(1.6)	0.29	N-6°-E	0.8	(0.32)	—	土師器・須恵器	8 c 後
H-3	(1.8)	—	—	—	—	—	—	土師器・須恵器	9 c 前
H-4	—	—	—	(0.9)	0.82	—	—	土師器・須恵器	9 c 前 東カマド?
H-5	2.2	(2.0)	0.19	N-44°-E	—	—	—	土師器・須恵器	8 c 前
H-6	—	—	—	(0.65)	0.9	—	—	土師器・須恵器	8 c 後 東カマド?
H-7	(1.7)	(1.2)	0.17	N-16°-E	—	—	0.6, 0.45, 0.26	土師器	8 c ?
H-8	(1.06)	(0.88)	0.12	—	—	—	—	土師器・須恵器	8 c ?
H-9	(1.8)	(0.82)	0.15	—	—	—	—	土師器・須恵器	8 c ?

土坑

遺構名	規模 (m)			平面形状	長軸方位	出土遺物	帰属時期	備考
	長軸	短軸	深さ					
D-1	(1.05)	(0.36)	0.1	円形	N-29°-W	土師器	不明	
D-2	0.86	0.73	0.23	円形	N-80°-E	土師器	7 c 後～8 c 前	
D-3	1.0	0.74	0.1	円形	N-81°-W	土師器	8後～9 c 前	
D-4	(1.2)	1.0	0.2	円形	N-14°-W	土師器	不明	
D-5	(1.0)	0.53	0.1	椭円形	N-32°-W	土師器・須恵器	8 c 後	

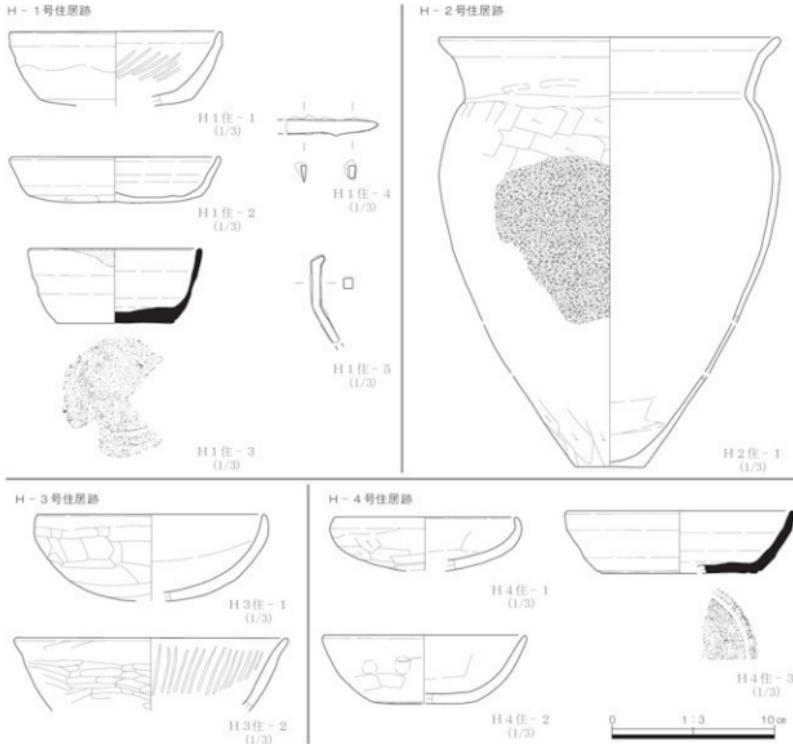


Fig. 6 出土遺物 (1)

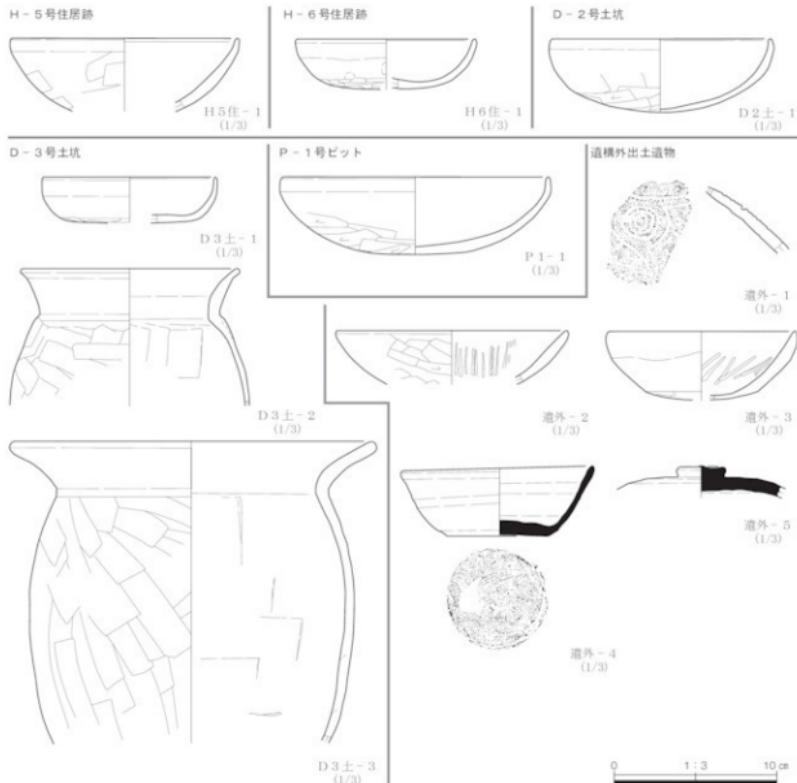


Fig. 7 出土遺物 (2)

Tab. 2 出土遺物観察表 (1)

遺物名	番号	器種	法量 (cm)	①被或色調②軸寸③残存	成・整形技法の特徴	備考
H- 1	1	土師器 环	口径：(13.2) 器高：(4.6)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁～底部1/3	外面：ナゲ、放射状暗文。 内面：ナゲ。	
	2	土師器 环	口径：(13.6) 器高：(2.8)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁～底部1/3	外面：ナゲ、底部鉗ケズリ。 内面：ナゲ。	
	3	須直器 环	口径：(10.8) 器高：(4.6)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁～底部1/2	外面：被縫整形、底部削輪舟切り。 内面：被縫整形。	
	4	鉢形器 环	残存径：5.6 厚さ：0.4 重さ：6.18g／刃部～茎。			片闇
	5	鉢形器 环	残存径：5.3 厚さ：0.6 重さ：6.38g／角封。先端欠損。			
H- 2	1	土師器 环	口径：(21.0) 器高：(4.2)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁～底部1/5	外面：口縁部ヨコナゲ、脚部～底部鉗ケズリ。粘土付着。 内面：口縁部ヨコナゲ。脚部鉗ケズリ。	
	2	土師器 环	口径：(14.2) 器高：(2.5)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁部分	外面：口縁部ナゲ、体部～底部鉗ケズリ。 内面：ナゲ。	流れ込み
H- 3	1	土師器 环	口径：(14.2) 器高：(4.5)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁部分	外面：口縁部鉗ケズリ後、ヨコナゲ。体部鉗ケズリ後、頭 内面：ナゲ、放射状暗文。	
	2	土師器 环	口径：(17.0) 器高：(3.3)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁部分	外面：口縁部ナゲ、体部～底部鉗ケズリ。 内面：ナゲ。	流れ込み
H- 4	1	土師器 环	口径：(11.8) 器高：(3.3)	①酸化焰2号 ②6系・白色 ③口縁～底部1/2	外面：口縁部ナゲ、体部～底部鉗ケズリ。 内面：ナゲ。	

Tab. 3 出土遺物観察表（2）

遺構名	番号	器種	法量（cm）	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
H-4	2	土師器 灰	口径：（12.6） 器高：（4.2）	①焼成②褐色③白灰母 ④口縁～底部1/5	外面：口縁部ナグ、体部～底部鉛ケズリ。 内面：ナグ。	
	3	重底器 灰	口径：（14.0） 器高：（3.9）	①焼成②灰白色粒 ④口縁～底部1/3	外面：輪縁整形、底部鉛鉗ケズリ。 内面：輪縁整形。	
H-5	1	土師器 灰	口径：（14.2） 器高：（4.5）	①焼成②褐色③白灰色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナグ、体部～底部鉛ケズリ。 内面：ナグ。	
H-6	1	土師器 灰	口径：（11.0） 器高：（3.1）	①焼成②褐色③石英・黒色鉱物 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナグ、体部～底部鉛ケズリ。指印痕。 内面：ナグ。	
D-2	1	土師器 灰	口径：（13.9） 器高：（4.6）	①焼成②褐色③白灰母・黑色鉱物 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナグ、体部～底部鉛ケズリ。 内面：ナグ。	
D-3	1	土師器 灰	口径：（10.6） 器高：（2.8）	①焼成②明褐色 ③口縁～底部1/2 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部ナグ、底部鉛ケズリ。 内面：ナグ。	
	2	土師器 灰	口径：（13.6） 器高：（8.4）	①焼成②明褐色 ③口縁～底部1/2 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部ナグ、底部鉛ケズリ。 内面：口縁部ナグ、底部鉛ケズリ。	
	3	土師器 灰	口径：（22.0） 器高：（18.5）	①焼成②明褐色 ③口縁～底部1/3 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナグ、底部鉛ケズリ。 内面：口縁部ナグ、底部鉛ケズリ。	
P-1	1	土師器 灰	口径：（16.0） 器高：（3.8）	①焼成②明褐色 ③口縁～底部1/2 ④口縁～底部1/2	外面：口縁部ナグ、体部～底部鉛ケズリ。 内面：ナグ。	
遺構外	1	調文土器 注口器	器高：（4.0）	①焼成②褐色 ③口更長石・黒色鉱物 ④鉄片	外面：浅底で又様器を区画し、帶調文・満文を施す。 内面：器面磨拭。	調文時代後期 型之内式
	2	土師器 灰	口径：（14.0） 器高：（3.2）	①焼成②褐色③白雲母・赤色粒 ④口縁部	外面：口縁部ナグ、体部～底部鉛ケズリ。 内面：ナグ、放射状暗文。	
	3	土師器 灰	口径：（11.4） 器高：（4.2）	①焼成②褐色 ③石英・白色粒・赤色粒 ④口縁～底部1/3	外面：口縁部ナグ、底部鉛ケズリ。 内面：ナグ、放射状暗文。	
	4	重底器 灰	口径：（11.6） 器高：（4.1）	①焼成②黃灰③石英・長石 ④口縫	外面：輪縁整形、底部鉛鉗切。	
	5	重底器 灰	器高：（2.0）	①焼成②黃灰③石英・長石 ④つまみ～天井部1/5	外面：輪縁整形。 内面：輪縁整形。	

V まとめ

これまでの元総社地区における発掘調査は上野国府推定城の内部、または国府推定城の北側における調査が多く、国府推定城の南側での発掘調査はほとんど行われていなかった。今回の発掘調査は国府推定城の南側にあたる地点だが、調査区の制約が大きく、遺跡の全体像を把握することは困難であった。出土した遺物から各住居跡の年代は概ね8～9世紀に帰属することが判明し、7世紀以前または10世紀以降の遺構・遺物は確認することができなかつた。

これまでの元総社地区における国府推定城周辺の発掘調査では、国府造営期・盛行期（8～9世紀）を境に、場所によって各時期の住居跡の検出数に差がみられることがわかっている。国府城に近い場所では、国府の造営に伴って人々が退去させられているため、7世紀を区切りに8～9世紀の住居跡の検出数は極端に少くなり、国府が衰退した10世紀以降になると再び人々が集落を営むといった状況が確認されている。逆に8・9世紀の住居跡が確認される場所は、国府造営に伴って退去させられた人々の集落であるともいえるが、国府自体に関係している人々（国府に從事する人々・耕作者・工人）の集落である可能性も否定できない。

今回の元総社落合遺跡の調査では、前述したように8～9世紀を中心とした住居跡が確認されている。これまでの調査事例に照らせば、落合遺跡周辺は国府造営期に国府城から退去させられてきた人々、もしくは国府に関係する人々の集落と解することができる。また、国府造営期以前の7世紀までの遺構や遺物が確認できなかつたことや、国府が衰退した10世紀以降の遺物や遺構が確認されなかつたことから、落合遺跡周辺は8～9世紀の限られた時期に営まれた一時的な集落であったと考えられ、継続的に集落を営むには適していない場所であったことも窺える。しかし、今回の調査範囲から読み取れることはわずかであるため、今後の調査成果によって集落の様相が変わることは十分考えられる。



H - 1 号住居跡全貌 (南西から)



H - 2 号住居跡全貌 (南から)



H - 2 号住居跡カマド全貌 (南から)



H - 4 号住居跡遺物出土状況 (南西から)



H - 7 号住居跡全貌 (南から)



D - 2 号土坑全貌 (南から)



D - 3 号土坑遺物出土状況 (南から)



基本層序 (東から)

P L . 2

H - 1号住居跡



H - 2号住居跡



H - 3号住居跡



H - 4号住居跡



H - 5号住居跡



H - 6号住居跡



D - 2号土坑



D - 3号土坑



P - 1号ビット



遺構外出土遺物



抄 錄

フ リ ガ ナ	モトソウジャオチアイイセキ
書 名	元總社落合遺跡
副 書 名	老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷 次	
シリーズ名	
編 著 者 名	福田貴之 梶田洋孝
編 集 機 間	有限会社毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 Tel 027-265-1804
発 行 機 間	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4 Tel 027-280-6511
発 行 年 月	西暦 2014年7月31日

所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
元總社落合遺跡	群馬県前橋市元總社町 字落合721-1ほか	10201 00817	36°23'08"	139°01'50"	2014.03.18 ~	36 m ²	老人ホーム デイサービス 新築工事
元總社落合遺跡	集落	泰良 平安	龜穴住居跡 土坑	9軒 5基	2014.03.28		土器 須恵器 鉄製品

元總社落合遺跡

老人ホーム・デイサービス新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成26年7月31日発行

平成26年7月31日発行

編集 / 有限会社毛野考古学研究所

発行 / 前橋市教育委員会

前橋市総社町3-11-4

Tel 027-280-6511

印刷 / 朝日工業株式会社